



台湾珍道中

卯年を迎えた1月の始め、予てから行きたいと思っていた台湾行きが、勢いで・・・まるでウサギがピョンと跳ねる様に決まった。それも1月の下旬に行こうと・・・早々にHPを検索してみると、3泊4日のツアーが無い、と言うか高い！折角盛り上がったところ、中止するのは性格的に無理な為、涙を吞んで2泊3日ということで手を打った。

JTBの代理店HPより予約申込みを入れる。AM10:30

午後になって、何度もメールを確認するが一向に返信がない。今日の今日は無理か？

HPの申込みフォームは便利だが、この様な時は電話に限る。

代理店へ連絡をしてみると・・・

「ハイ、JTB・・・店・・・が承ります！」女性の弾んだ声だ！

「エっと、HPを見て連絡をしたのですが！」

「ハイ、どの様なご用件でしょうか？」

「ツアーの予約なんですけど」

「国内旅行でしょうか？」

「いや、海外・・・といっても台湾です」

「ハイ・」間髪いれずに

「ツアーコードがわかるのですが」

「あっハイ何番でしょうか？」

「え〜と、○△×□の1234です」

「ハイ、○△×□の1234ですね、少々お待ちください」

少々間をおいて

「すみません、もう一度お願いできますか？」

「もっもう一度ですか、あっはい！○△×□の1234なんです」

「ハイ・・・恐れ入りますが、ツアー名はお分かりになりますか？」

「台湾2泊3日、ん〜そっ格安！かくやすツアーです」

「格安ですかあ？」

「そうです！！」

「ふっ、お客様、お買得旅ではないですか？」

ふっってなんですか？・・・

「えっ・・・おかいどく・・・かくやす・・・そうですお買得です！」

「申し訳ございません。このツアーはキャンセル待ちになってしまいますがよろしいでしょうか？」

「キャキャンセル待ちい？」

「ハイ！」

「で、どおしたら良いのですか？」

「キャンセルが出た段階でご案内できます」

そりゃそ〜でしょうけど！

「手続きのことですが・・・」

「ハイ、お申込みをして頂ければそれで」

それで、で何なんだ！

「します！しますのでどうしたら？」

「ハイ、ではこちらの営業所にご来店していただき手続きを致します」

「りょう・・・、はい、わかりました」

「ただし！キャンセルのキャンセルは出来ませんのでご了承下さい」

「キャンセルのキャンセル？」ん〜不可解だが・・・

「わかりました、では今から伺います」

そんなこんなで、来店をしキャンセル待ち予約手続きを完了！

キャンセルが出たら連絡をしてくれることになった。

話によると、通常出発間近のキャンセルはあまり出ないようだ。

期待半分で待つことにした。

其の二

キャンセル予約から待つこと10日。

ふと携帯を見ると着信あり！留守電もあり！

おっこれは！もしや？

テープマークの再生ボタンをプッシュ！

「ハイこちらJTB・・・代理店の・・・と申します」

「・・・さまの携帯におかけしております」

そうそう・・・さまです！

「26日ご出発の台湾ツアー、キャンセルがお取り出来ましたのでご連絡差し上げています」

とっとなっちゃったのお～！

「お手続きをさせていただきますのでご来店お待ちしております」

明日行きます！pm10:15

「尚、キャンセルのキャンセルは致しかねますので、ご了承ください」

またキャンセルのキャンセルかい・・・不可解！？

翌日、勇んで旅行代理店に出向き、一通りの説明を受け手続きは完了したのだが・・・

日程表を見て良かったこと一つ、微妙なこと一つ、問題事一つ

まず良かったことは、到着する空港が松山国際空港だった事。

当初の予定は、桃園国際空港着でここは空港から台北市内までバスで1時間もかかる

松山国際空港は、市内に隣接してあるのでホテルまで30分程、この30分近いというのは交通事情も考えるとありがたい。

次に微妙だったのは、ホテルが当初「リオフーホテル」となっていたが、

それが「パラダイスホテル」という何とも怪しい名前のホテルに変わっていた。

最後にこれが問題。何と集合時間が朝の5時！羽田国際ターミナルJTBカウンターだった。

さすがにこれは無理でしょ！と思ったので代理店の女性に7時のフライトで5時集合ですか！？

と聞いたところ

「ハイ、通常海外にご出発の場合は2時間前となっておりますので！」

「なっておりますも、羽田空港に住んでいるわけじゃないんだから・・・電車が無い思うなあ」

「もし遅れる場合はどうしたら？連絡を入れるとができますか？」

「え～JTB羽田空港事務所は朝6時からの営業ですからあ・・・」

「・・・？朝6時からの営業？で！で！何故5時集合なんですかあ？」

「ですから、通常海外ご出発の場合は2時間前・・・」

「となっておるんですよ！」

「少々お待ちください。あっ営業時間外の場合はこちらの連絡先にお願いします」

「ですよ！ありますよね」

「ハイ」返事はとても良い。

用件は終わったので、席を立つと

「ありがとうございました。遅れずに・・・お気をつけて行ってらっしゃいませ」

遅れずにい？

事務所に戻って相談会議。

5時に羽田は無理でしょ！

だよねえ！

車で行く、タクシーを頼んで行く等案は出たが、最終結論として前の晩から羽田に行っとく！
ということになった。

それが、急転直下と言うか当たり前なのだと思うが、一緒に行く相方がJTBに連絡して
再度聞いてみたところ、30、40分過ぎても大丈夫ですよとのこと。

ほっと胸を撫で下ろし、当日の始発で羽田に向かう事になったのであった。

は295人。

離陸してしばらくすると、小袋に入ったミックスマッツが配られた。

タイトなスカートの美人CAさんだったなあ。

高度は10500m。



前の座席の背にモニターが各々設置してあり、そこで最新の映画が8本程観られる。

中には、日本語対応していない映画もあるので、取り合えず日本上映(2/4)がされていない、マイケル・ダグラス主演の「ウォール・ストリート」を選択。

再生ボタンを押そうと思った矢先、前方よりワゴンを押すCAさんが・・・?

朝食である!機内食が有料化されると言われているご時勢、さすがチャイナエア!

耳を凝らしてみると、どうもエッグとお粥を選べる様である。ワゴンが横に来るまで悩み、エッグをゲット。

お粥は、台湾に着けば嫌になるほど食える。

トレーに乗っているのは、メインの器にスクランブルエッグ、ベーコン、ポテト、ミニトマト。その左横器にバターとマーマレード。前方の器との間にクロワッサン一つ、その左に明治ブルガリアヨーグルト。

前方左から、フルーツ数種、サラダ、そしてカップにウーロン茶をもらった。



日頃は、朝からこんなに食べないのだが、出されると食べてしまうものである。

味は、良かったほうだ。

朝食に満足し、さあ映画の続き、と言ってもまだ選んだだけであったが・・・。

上映前の映画なのでしっかり観ようと思っていたのだが、眠気には勝てず、始めの30分と後半の15分しか

まともに観る事ができなかった。残念!

そうこうしている内に、着陸のアナウンス。

とうとう中華民国に舞い降りる。



タイヤが滑走路にキュキュキュッと接地し、逆噴射のジェット音がブワー。
無事、松山国際空港に到着しました。

其の四

現地時間10時00分、エアバスは台北にランディング。

日本との時差は1時間である。

シートベルトのサインが消えると同時に我先にと手荷物を収納ボックスから下ろし始める。

皆何故急ぐ？

しばらくすると、出口ドアが開いた様で並んだ列が動き始めた。

それでは、我々も。

出口付近に立っているCAさんに「謝謝！」と言って機を降りた。

ここ松山空港は、桃園国際空港が三十数年前に開港されてから国内線専用の空港であったが羽田空港の国際線強化にともない日本との定期便が再開された様だ。

到着ゲートから案内板に従い入境審査（入国審査ではなかった）へ進む。

「外国人」と書かれたプレートのカウンターに並びいよいよ入国である。

時前に書き込んだ入境カードとパスポートを係官に渡ししばし沈黙。

何事も質問されることも無く、入境スタンプを捺されパスポートが返ってきた。

次にバゲージの受け取りのため便名の書いてあるターンテーブルに向かい荷物の流れに目を凝らす。

出てきた自分の荷物に安堵し税関へ。

「快速海關検査台」の表示のあるカウンターに行き係官にパスポートを渡す。

しかし荷物を開けることも無くノーチェックのままクリア。

やっとのことで到着ロビーに出ることができた。



確か現地のJTB係員が出迎えに来ているはず。

キャリーバックを転がしながら進むと、お揃いの薄茶のブレザーを着た人が四人柵の向こうに並んでいた。

何故四人もと思っていたら、ツアーの種類がいくつかあり、泊まるホテルのグレードでも担当が違う様だ。

我々は格安、ではないお買得ツアーのDランクホテルだから誰だ？と見ていると、一番端の女性が

「パラダイス△×□・・・」と言っていたので、手を上げて

「パラダイス！」と言ってみると

「ハイ！だれですか？」と言うので
誰はないだろ！と思いつつ、
「・・・です」と告げると、手に持った名簿らしきものに目を通し
「ハイ・・・さんですね、・・・さんと」とチェック入れた。
程なくツアー参加者の点呼が終わり空港外へ。



おお～台湾台北市だあ、現在10時35分。

どことなく日本と違った匂いを感じつつ、近くの駐車場に停めてあった大型のハイデッカーに乗り込んだ。

バスの中でいくつかのリーフレットが配られた。その中にMRT (Mass Rapid Transit)のカードがあり、



これで100元分電車が乗れるそうだ（チャージ式）。100元と言えは約300円である、東京の初乗り2回で

なくなってしまう。後でわかるのだが、MRTは初乗り20元（約60円）であった。

バス内で両替もしてくれ、手数料なしで1万円を3450元に換えてもらえた。これで3日間を乗り切るぞ！

いくつかのホテル（大飯店）を周り、最後が我が「パラダイスホテル」であった。



しかしそこは思っていた程ではなく、なかなか趣のある台湾ホテルでロビー中央には噴水？が鎮座していた。

造りは古そうだが、石貼りの床に台湾の装飾品が飾られた壁、ん～嫌いではない！

チェックインが午後3時なので、荷物をポーターに預け早々に街に繰り出す。

今日第1日目（1/26）の予定は、バスで九份という所に行く。

九份は台北から東北東に30キロほどの所で、宮崎駿「千と千尋の～」のイメージになった場所でもある。

しかし、雲行きがめっちゃ怪しい。今の時期というか通年雨が多いところなので覚悟はしていたが、

やはり雨は外では心身共に疲労を増すので出来ればこのままもってほしいものだ。

そして、九份行きのバスに乗る為、忠孝復興駅までMRTで向かうのであった。

其の五

忠孝復興駅にはMRT（地下鉄）での移動である。

マップで確認するとパラダイスホテルから最寄の駅は西門駅で600メートルってところか。てくてくと街を見ながら歩いて行くと気づくことがあった。

それは、車道沿いの建物がどこも二階部分を歩道幅分せり出している。



歩道は建物のピロティ部分にあるということで、日本でいう道路幅員のとらえ方とは少々違って来る。日常では、雨に濡れずに歩けるので良いが、建物ごとに（全てではないが）歩道の高さが若干違いがあるので、足腰が弱ってきた我々にはつまづく可能性大であった。街の建物はどこも古く、しかしそれが良い味を出している。多くの看板も台湾らしさだ。



西門駅前に着き日本と同様、地上部分からエスカレーターで地下ホームに潜る。

ここでマナー、関西（大阪だけ？）と同じなのだがエスカレーターの乗り方。

歩いて上る下る人は左側を使うので、右側に寄って乗ることになる。

地下コンコースに下りて改札に向かう。初めての乗車なので切符を買ってみようとなり販売機らしきところに・・・しかし何か違うぞ！よくよく観察してみると銀行のATMだった。気を取り直してその先にある販売機に。

液晶画面の切符を買う（たぶんそう書いてあった）ところを触ると路線駅名と金額が表示される。

忠孝復興駅までは、板南線で4つ目20元（初乗り値段）だ。両替は札で3400元分、小銭は50元の1枚だったのでここで崩そうと思い1000元を入れるが戻ってきてしまう。

1000元札は使えない機械だったようなので、100元札で購入。

すると、から一んと切符？が出てきた。こっこれは、カジノというかゲーセンのチップではないか？

と思わず様な・・・いやその物である。



そのチップを握りしめ、いざ改札へ。

日本の自動改札と同じタイプではあるが、なにせチップだからなあ。しばし改札を抜ける人々の様子を見てみたが、皆カードを機械にあて通っている。カードにすれば良かったと後悔したが、ここは何とかチップで通ってやると気合をいれて進み、ドキドキしながらゲーセンチップを機械にかざしてみたところ、「プッ」といってゲートが開いた。

なるほど、形に誤魔化されてはいけなさと悟った。

よく考えるとこのチップ型切符は、何度も再利用できるので紙に印刷された切符と違い大変エコである。

無事改札を抜けホームへ。MRTの駅はどこもとてもきれいだ。

方向を確認して電車に乗り込む。日本の地下鉄と違うところは、網棚がない。そのせいか車内がすっきりした印象だ。天井高さが低いので落ち着く。

忠孝復興駅に到着しバス乗り場へ。事前に調べてあったが一向に目的のバスが来ない。

30分を過ぎたころ、やっと「台北 九份 金瓜石」と表示されたバスがやって来た。

雲行きも怪しいぞ。

バス停に書いてあった金瓜石、日本語読みだと「きんかせき」と読むのだが、なんと言ったら良いのか？そこでローマ字表記があったのでそれをそれっぽく運転手に告げると通じた！・・・よくよく考えてみると首からカメラを下げた日本人がこのバスに乗るのは、対外が金瓜石か九份だろうとふんだのであろう。

九份まで90元であると調べはついていたので、その少し先の金瓜石は100元くらいだろうと思っていたところ、「バイ、アー○！」と運転手。たぶん。

んっ102元か？！まあ予想通り！と思い、100元札を渡し10元玉を小銭入から探している

と
何やら、怪訝そうな顔で早く行け的なしぐさをする、あっそうか2元まけてくれるんだなと勝手に

思い座席へ。その後から相方がやって来て一人100円で二人だと分かった。



しかし何故二人組みだとわかったのか・・・やはり首から下げたカメラだったのか？

終点の金瓜石までは、約90分。途中、高速公路（高速道路）に乗りバスは進む。

バスから街を見ていると、何とスクーターが多いことか！信号待ちで次から次へとバイクが溜まって

くる。40台以上はいるだろうか。逆に自転車はほとんど見ない。街中はスクーターの駐車場と化しているくらいだ。



街中を抜け進んでいると、ポツポツと雨が降ってきた。嫌な予感だ。金瓜石は山なので覚悟はしておかないと。合羽は入れたが傘はホテルの荷物の中だ。

やっと九份を過ぎ金瓜石（終点）に到着した。土砂降りだあ！



其の六

雨である。PM2:00

早々に合羽を着たがポンチョ型であった為、風でめくり上がるあがる。



しかし、雨もまたこれ旅の風情と思い歩き周ってはみたが、結局黄金博物館も見ることなく下りのバスに乗り九份へ（20元）

金瓜石とは違い九份は、観光客がたくさん訪れていた。

雨にも濡れ、気がつけば2時半になる。どうりで腹が減っている筈である。

遅い昼食をしようとなり九份の中心街へ入って行った。入り口にあたるところの脇には、日本でもおなじみのセブンイレブンがあった。



メインの商店街は、細く緩い坂道の両側に食堂や土産店が連なっている。



赤い提灯が印象的な、ノスタルジックな佇まいで人は多いのだが何か落ち着く空間である。

中ほどに進み、一軒の食堂に入った。

魚のすり身団子の入ったスープと魚肉の佃煮のような物がかかったご飯、それと青野菜の炒め（二人で一つ）を頼んだ。どれもおいしかった。日本人の口にも合い、一人100元（約300円）



腹も満たされ九份の中をそぞろ歩く。ここで良かったのは、この細い坂道は両側から店の庇が張り出しており、さほど雨に濡れなくてすむ。

途中細道を曲がり階段を下りると開けた場所に出た。そこには、「聖明宮」と書かれた廟が煌びやかに建っていた。軒天の装飾もすごかった。



ここに祀っている主神は、三国志でおなじみの關聖帝君、英雄関羽だそうです。

たしか、横浜にもあった様な？

さらに歩き進むと高台からまたこれも煌びやかな廟が見えた。



近くまで下りていくと、「霞海城隍」と書かれた廟だった。



この旅行記の表紙は、この廟の柱に装飾された龍の写真です。



中に入ると何とも鮮やかな色使いの装飾に圧倒された。



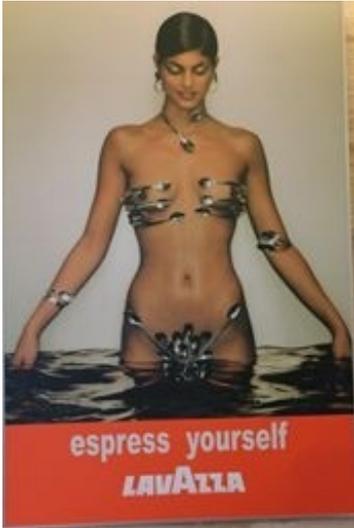
廟を後にし少々疲れてきたので、休憩をしようとケーキ店らしき店の奥にある喫茶室（倉庫？）
で

ホットココア（100元）を頼む。ココアは普通だったのだが、一緒に付いてきた落花生！開けてみ
ると

何ということでしょう！黒いピーナッツ？薄皮を剥くといつもものピーナッツなのだがこれが旨か
った。



そこの壁に貼ってあったポスター（いい感じ）



しばしの休憩とポスター鑑賞で元気を取り戻した我々は、ここ九份の路地商店街で一番有名であろう

豎崎路方向へ。と途中に東シナ海が見えました。さすがに尖閣諸島は見えないなあ。



豎崎路は、どこの旅行ガイドにも必ずと言っていいほど載っている石段の坂道で何とも良い雰囲気漂わせている。正面の看板は、阿妹茶酒という茶藝館で台湾の銘茶と手作りスイーツが人気らしい。



時刻は6時になろうとしている。

雨降りではあったが九份の街を楽しめたので、そろそろバスで市内に戻ろうとなった。

其の七

九份から一時間あまり、市内に戻ってきた。



ホテル界隈の東京のそれと変わらない、にぎやかな商店街を歩いていると、店の前に小さな出店がたくさん出ている交差点に出くわした。

果物を売っている屋台や餃子、ベビーカステラ、アクセサリ、衣類などさまざま。



これも夜市の一種かと思って眺めていると、急に屋台が群れを成して逃げるように移動しはじめた。どうしたのかと立ち止まって見ているとその後から警察官らしき制服を着た男性が追うように、しかし歩きながら過ぎていった。

無許可の露店取り締まりなのであろう。

事情を理解し協道にそれてみると、そこには先ほど逃げていた露店が商魂逞しく営業を再開していた。



やはり観光の一部となっている為、警察もあまりうるさく言わないのだろう。

時刻は8時になろうとしている。

夕飯はどうしようかと悩み、結局近くのセブンイレブンにお世話になろうと言うことになった。



こちらのセブンイレブンは少々品数が少ない。何にするか店内を見渡して少しでも台湾っぽい物にしようと思い「国民弁当」と書いてあった弁当（70元）にした。それとカップラーメン「濃拉麺」（30元）、ハイネケン700ml（95元）を購入。



ホテルに戻った。

台湾は公共施設、ホテル、レストラン等、禁煙になっている場所が多く我慢。

パラダイスホテル「伊樂園大飯店」の2026号室（と言っても20階ではなく6階）に今日と明日宿泊する。

6階なのだが正確には7階に当たる。何故そのようなことになるかと言うと1階が2階なのである？！

L（ロビー）階があり、その上の階が1階になっている為そのようなことがおこる。

朝到着したときにも思ったが、悪くないホテルである。客室もきれいで、アメニティーも整っている。

一番関心したのは、Wi-Fiが各階に来ているということだ。持参したiphoneが使えるのはうれしい。

気になったのは、ヘッドボード側の壁に掛かった額が斜めになっていたので、もしやこの裏側にお札が貼ってあるのではないかと妙な勘ぐりをしてしまった。

あっという間にpm 10:00を過ぎてしまったので、シャワーを浴びて寝ることにする。

明日は、「淡水」に行く予定。

其の八

二日目の朝である。

朝食はホテルに付いているので安心だ。時間は6:30~9:30までとなっていたので朝食の前に明け方の街を撮りに行こうとなり6時に出発。



ホテルからそう遠くない「淡水河」に向かった。途中、でかい犬を連れたおじさんに出くわして「おお〜！」と言うと手を振ってくれた。



何という種類の犬だったか？

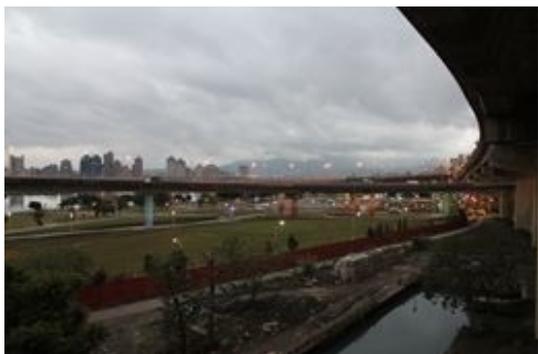
淡水河は名前の通り、今日行く淡水方向に流れ出ている。「忠孝大橋」付近で800mぐらいの川幅がある。

淡水の河口付近では1km以上ありそうだ。

橋を渡るため、なんとも危なっかしそうな歩道橋の階段を上がる。

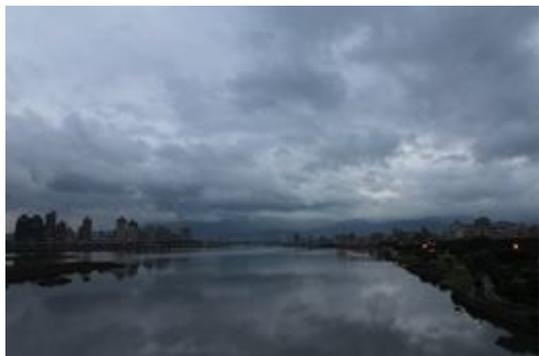


川に沿って親水公園が造られており朝からジョギングする人が何人もいた。



川側の公園と街の間には高い防水堤防が築かれていて、やはり台風が多く発生する地域の対策なんだなと感じた。

今日は、空はどんよりしているが、雨はまだ落ちて来ていない。



忠孝大橋の中ほどまで歩き淡水河を写真に収めて、ホテルに戻る。



am7:30地下の食堂にて、ヴィッフェスタイルの朝食である。

なかなか種類も豊富で味も良く、大満足であった。



食事も終え、今日の目的地「淡水」へ出発！

ホテルから淡水へは、MRTの台北駅（台北車站）から淡水線で一本40分弱である。

ホテルの最寄駅は西門なのだが、乗り換えも必要となる為折角だから和平公園



にある国立台湾博物館



を周って台北駅に行こうとなり本日の強行軍が始まるのであった。



其の九

台北駅を10時に出発した我々は、MRT（50元）にて淡水駅に半過ぎに着いた。



淡水は、かつてスペインやオランダに統治されていたため異国の雰囲気のある建物が多く点在する。港町でもあるので、魚介類がおいしそうでもあるが生はやめておこう。まずは、公明街から中正路を通り途中淡水河沿いの道を歩く。

商店街の市場は、なかなか活気があり人も多く楽しい。

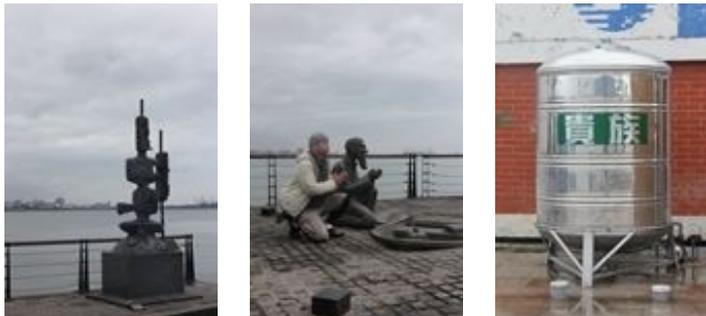


レトロな三輪車が止まっていたので、後ろに回ると刃物を砥いで周る商売をしている様だ。川沿いに出ると、船の発着の棧橋があった。遊覧船と日常の交通船の乗り場だ。



もしや次の目的地「士林」まで行くかもと思って運行表を見てみたが、二つ先の「竹園」という駅のそばまでしか行ってなかった。

先に進むと、何やらオブジェらしきものがあるがいくつかあり、その一つと旅の安全を願って？ポーズ！貴族と書いたタンクもあった（これは使われている設備だが）。



工事中の場所も多く少々がっかりもしたが、淡水河河口は広く雄大であった。



淡水と言う町の観光域の一番端に「紅毛城」（ホンマオツェン）という赤レンガ造りの城郭がある（何故か入場料無料だった）。



この城郭は、何と壁の厚さが1.9mもあるそうだ。その場内に元イギリス領事館だった洋館も建っている。当初オランダ人の所有だったこともあり庭のテラスにでかい木靴？のオブジェがあった。



一通り園内を周って腹が空いてきたので紅毛城を後にし、食べ物屋を探す。

行きにチラッと見ておいた食堂らしき店のウインドウに坦々麵40元と書いてあったことを思い出し、その店に入った。年配？の女性と少し若い女性がやっている店だ。

淡水は、北京語しか通じないと聞いていたので少々心配していたが、入ると若い方の女性が「どうゆうすびーくいんぐりっしゅ？」と言うので安心した。

しかし・・・「りとる」と答えて、次に「ぬーどうる」次にウインドウを指差し「らいと！」ど一言う会話じゃと思ったが目的のものは出てきたので、結果オーライ！



40元、スープ付 pm12:15

腹も満たされたので、今しばらく淡水の街を散策。

駅に向かう途中、福佑宮という廟に出くわした。

なんでも、淡水最古の廟であるようで、海運の街にふさわしく、航海の守護神である媽祖と観音

を
祀っている。



商店街で土産物を買おうとなり、行きに覗いた「傳藝工場」と言う店に入った。土産店は多くあったが

あまり商売っ気を感じられない、もの静かな男性がいたことが印象に残ったのか・・・。

店中で何か彫っていたので職人だったのだろう。帰りに寄った時は彼は居ず二人の台湾女性に代わっていた。

自然石を彫って作った梘と石膏に色づけした小さな十二支の置物を購入。満足。

淡水駅に着き、本日次なる目的地「劍潭」（チェンタン）へ向かう。



pm1:30

其の十

劍潭に来た目的は、士林夜市に行くことである。

台北市内各地で数多くの夜市が立っているが、この夜市が最も規模がでかい。

隣に士林駅があるが、最寄駅はここ劍潭。

p m 2 : 0 0 到着。



夜市は5時頃からなのでその前に「忠烈祠」を見ようとなり、少々痛みが出始めた足をかばいながら向うのであるが、これが思いのほか遠かった。

掲示板があったので証拠写真。



何やら前衛的なオブジェ？と思ったら、大通りを渡る地下道の入り口だった。



圧巻したのは丘の上に建つ、やたらとでかい建物。また廟かぁ？と思ったら、

「台北圓山大飯店」という台北屈指の高級ホテルであった。



近くで見たかったが気持ちとは裏腹に、足は石段を上がることを拒んだ。仕方ない。
やっとの思いで忠烈祠に到着。pm2:30



ここは、抗日戦争などで戦死した33万の英霊を祭っている。日本人では唯一
「山田良政」という人が祭られている。

その御霊を守る衛兵が、入り口の大門牌樓と大殿の前に二人ずつ立っている。
この衛兵の交替が毎正時に行われるので、是非目撃しておこうとなり3時になるのを
待った。

3時である。衛兵室とおぼしき所より2-1-2のフォーメーションで五人の衛兵が
規則正しい歩行をして出てきた。



ピカピカのヘルメットに深い緑の衛兵服、少々寸足らずのズボンであるがこれは編み上げ
のブーツの紐を直し易いためか？手には銃剣を前後二人ずつが担いでいる。

フォーメーションは正面を向いた段階で1-2-2に変わる。



大門牌樓から大殿まで200mほどを往復し、衛兵の交替は終了する。
衛兵は皆、背が高く丹精な顔立ちをしている。陸、海、空軍の超エリートだそうで
この任務にあたるのは名誉なことだ。



衛兵とともに往復したので足が限界を迎えつつある。夜市が心配だ。
忠烈祠を後にし夜市街へ向う。



其の十一

さすがに限界だ。夜市街に向う途中喫茶店を探す。これがなかなか無く、
やっとの思いで見つけた飲物屋で休憩。プラムコーラなるものを頼む（40元）。
特に変わりも無く普通のコーラだ。屋外にテーブル椅子があるのでタバコが吸えたのは
ありがたい。



夜市周辺の小さな店は、夜市が始まる5時から開けるところが多いようだ。
30分程休憩をし、足が復活してきたところで出発。ガイドに載っていた文林路沿いの
夜市へ向う。しかしこれがなかなか分からずに交差点で本の簡略地図を見ていると、
タイトなジーパンをはいた大学生？と思しき若い女性が
「だいじょうぶですか？どこいくんですか？」
と日本語で聞いてきたので、これはありがたやと思い
「謝謝、えっとここに行きたいのですが！」
と地図を見せると
「いま、ここなのでむこうです」と、
そうかあ？と思う方を指さしたので
半信半疑ではあったが、郷に入れば郷に従え「謝謝！」と言って教えられた方向に進む。
これがとんでもない結果を生むのだが、女性が話しかけてきてくれた効果は
痛む足にも効いたようで、元気になった。
どこに行ったかと言うと隣の駅「士林」まで行ってしまった。まあ士林駅も見れたから
良いかと思い聞かせ、てくてく戻るのであった。
途中、「慈誠宮」という廟がある賑やかな道を通って（ここも夜市）ぶらぶら。



劍潭駅前にある「美食廣場」という夜市センターとも言えそうな建物に向う。
やっとの思いで駅前に戻ったのは6時頃。
美食廣場の前は多くの人々が並んでいた。



これは中はごった返しているな、と思ったが中はさほど混んでいなかった。



腐豆腐の匂いの漂う中進み、食欲を失ったり増したりしながら、ここで夕食にしようと思われ、比較的空いてる屋台に入った。

注文したのは、小籠包（6個）、ビーフン、魚佃煮かけご飯以上で100元（300円）である。少々香辛料が気になったが旨かった。

フルーツを売っている店も多くあり、その中で「アテモヤ」を積んである店を見つけた。日本で食べたいと思っていたフルーツなので、是非買ってホテルで食べようと思いき店の女性に一本指をたて「わん！」と言ってみると

「二つ買えば一つサービス100元！」と言っている（身振り手振りで）。

こちらは三つも食べられないし、日本に持って帰ることも出来ないのも一つでいい！と言っているのに譲らない。仕舞いには袋にアテモヤを一個放り込んで

「何で！買わないんだよお！」的な表情でお金を受け取り後を向いてしまった。

結局、50元だった（別の場所で40円で売っていたところもあった）。

日本で買うと10倍近い。後50元（150円）だったら3つ買ってもよかったかな？と思っ少し後悔したが、郷に入るとそれが高いとも思ってしまうので不思議だ。

よく歩いた一日も終わり、MRTに乗ってホテルに戻るのであった。

七時を回った頃、セブンイレブンにてお決まりのハイネケン700mlとつまみを買



ホテルに到着。

ホテルの窓から稲妻の様な光（たぶん雲と照明のいたずら）。

2泊3日の旅も明日最終日。

其の十二

あっという間に二日が過ぎ、帰国の朝である。

帰りの出発がホテル午後2時50分なので、それまで市内を探索することになった。

6時に起床し6時30分朝食。

今朝のヴィッフェは、麻婆豆腐とチャーハン、新作の蒸しパンが2種追加になっていた。

早々に朝飯をかき込み部屋に戻り荷物をまとめる。

ロビーに降りてチェックアウト、ポーターに荷物を預け最後の台北に出発。また雨！



今日はまず、MRTで市政府駅まで行き、そこから台北101に向う。

地下鉄の乗り降りも慣れたもので迷うことなく到着（台北駅から6つ目なので迷うはずもないが）。市政府駅からは徒歩で15分ほどで台北101に着く。



まあ、101階建（509m）のランドマークなので遠くからも見えるが、真下から見るとその高さは圧巻である。伝統的な塔や竹をモチーフにした外観は、やはりアジアを感じてしまう。観景台（展望台）は89階（屋内）にあり、天気の良い日は91階の屋外展望台にも行けるそうである。91階には世界最大のウインドダンパー（風圧抑制装置）があるそうで見学もできる・・・そうである。時間の関係もあり2階までは行った。台北101から、「國父紀念館」に向う。途中、ワコールビル？を思わせる建物が



目に入ったので激写！

MRT各駅（全てではないが）周辺には無人のレンタサイクル（たぶんそうだろう）がある。別の場所に乗り捨ても可能？のようなのでそれなりに便利。

國父紀念館は建国の父、孫文の生誕100年を記念して建築された、巨大な建物だ。

ここも衛兵交替があるそうなんだけど・・・衛兵が見当たらない。代わりに学生らしき集団がヒップポップのようなダンスの練習をしていた。ここの大ホールでイベントが

あるのだろう。



再びMRTに乗り次は、龍山寺駅へ。駅名通り「龍山寺」が目的だ。

龍山寺は台北最古の寺廟。ご本尊は、観世音菩薩（観音様ですね）の他、色々な神様が祀られており、マルチに御利益がある。



右側の「龍廳」から入場し40cmはあろうかと思われるお線香を七本と蠟燭2本を用意、前殿の燭台に蠟燭をお供え、三拝する。それから三宝仏と本殿の間にある香炉2箇所にお線香をお供え、本殿右側通路を通り、後殿に残り5本のお線香を各神仏前の香炉に一本ずつお供えする。それぞれ三拝することを忘れずにとのことだった。



中で三日月形の朱に塗られた木片を二つ床に放り投げて祈っている人を見かけた。



何だろう？と調べてみると、「月下老人」に縁の伺いを立てるお参りだそうだ。

お賽銭を入れ、手を合わせ住所・氏名・生年月日等を言い（心の中で）良い縁がある様に願う。そして木片を投げその出方（表裏、表表、裏裏）でお守りである「赤い糸」をもらえる様である。ちなみに表と裏の組み合わせでもらえ、表表、裏裏の場合はまだ縁の時期でないと神様が判断したことになる。残念～！



龍山寺を後にし、ホテルまで歩くことに。

途中、新宿プラザがありました。



正午を過ぎ、台湾での最後の食事をしようと思ったところが、「麵太郎居酒屋」。
後で調べてみると、この店はニュースに取り上げられる程、台北で有名な店らしい。

入ったのは、たぶんその支店だったと思う。

焼肉定食を注文（175元）、メインの焼肉と言うか生姜焼き？にマーボー茄子、サラダ、味噌汁、ご飯、フルーツ（西瓜）が付いていた。味は良い。



腹も満たされ、残りの時間街をぶらぶらしホテルに戻った。

其の十三

伊樂園大飯店（パラダイスホテル）に戻ったが、まだ時間が余っているので今しばらくホテルの周りを

ぶらぶらしようと思った。



すると前方から黒い中型犬が二匹向ってきたので少々びびりながら激写！

台湾（台北）は、多くの野良犬が野良犬だけに？自由に歩き回っている。街の人々は店に犬が入ってきても

怒ることなくふつうにしている。怒鳴ったり叩いたりしている光景は、短い期間であるが見ていない。

野良犬とうまく共存しているようである。

反面、糞があちらこちらにあるので気をつけなくてははいけない。踏んで「運」が付いたと喜んでいるのは

我々だけだ。

出発に遅れてはいけないと思い2時ころホテルに戻った。しかし、出発の50分になっても添乗員が来ない。

早く戻って損した気分だ。

3時になろうとしている時、添乗員は現れた。

「みなさん、いますか？」

2時50分集合ではなく出発なのだから、当然いるだろ！と思ったが、これが台湾タイム？と思って我慢。

点呼も終わり来た時と同様のハイデッカーに乗り込んだ。

バスが走り出し添乗員の女性から

「他のホテルを回ってから、土産店に行きます！」

そ〜かそ〜か

「お土産を買うときに割引になるチケットで〜す！」

と、一枚の入場券みたいなものを渡された。見ると「金龍藝品有限公司」書いてある。金龍工芸会社ってどこか。

裏には日本語で「NT3000元以上お買い上げの方に総額の5%を差し引き致します」とある。5%？割安？・・・それよりこの旅行で始めに両替したのは1万円分（3450元）である。手元に3000元など

残っているはずもない。まあいいかと思っていると、店に着いた。

店内は広く、多くの品物が並んでいる。添乗員の説明を聞きながら店内一周。

「では、30分後に店の前に集合してください！」と添乗員。

30分間しか無いのか？・・・これが心理である。帰国する前最後のチャンス！、尚且つ30分しかない。

品物を吟味し、ディスカウントの交渉をしている暇がない。手当たりしだいかなぁ・・・少し高い！と思う猶予も

あまりない。しかも、日本円でもOK。

結局、その時間との勝負に押し流され、数点の品物を日本円で購入するのであった。井の中の蛙じゃあ～！

しかし、何故か満足。これでいいのだ。

松山国際空港に到着。いよいよ帰国である。

出国の手続きを終え、出発ロビーへ。

ここで本当に最後の土産（自分の為の）、空港免税店にて煙草と台湾酒を購入（日本円で）。

ロビー椅子に座り搭乗の時を待つ。するとアナウンスが流れ「機材が到着していない為搭乗が遅れます」と。

機材？タイヤが一個足りないのかぁ？などと考えていると・・・はたと気づく。

18：15のフライトが18：45になると・・・羽田着が11時頃になってしまう。実際入国審査バゲージ受取などして

いると11時半・・・。帰りの電車があるのかぁ！と来るとき同様、心配になるのであった。

そんなこんなで機中の人となり、最新映画！今度は「The Town」、ベン・アフレック監督脚本主演の映画を鑑賞。

夜の便なので、機内で夕食も出た。チキン&ライスをチョイス！

また眠気が・・・あつと言う間に羽田空港着陸、無事帰還致しました！

台湾珍道中後記

二泊三日の短い旅ではあったが、初めての台湾に満足できた。

ツアー費が安いこともあるが、中華民国という国が大変魅力のあるところだと分かった。

今回は台北と近郊のみだったが、まだまだ感じることのできる場所は多くあるだろう。

いずれは、台中・台南・高雄と訪れてみたい。

この旅の主目的は、台湾を撮ろうという事で1000枚程の写真を撮ったが、まだまだ写しきれていない。

台湾の台湾らしさ！台北の台北らしさ！

やはり人との係わりが無かったことがその理由になるだろう。言葉の壁はなんだかんだ言っても大きい。

もし次回また訪れる機会があったら、是非言葉を覚えて行きたいと思う。

「郷に入れば郷に従え」これは訪れる「郷」の言語にも言える事だ。

写真の腕（技術）を上げ、さらに見聞を広げるべく渡航したいと思います。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。

台湾珍道中

<http://p.booklog.jp/book/19751>

著者 : puyopan

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/puyopan/profile>

発行所 : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/19751>

ブクログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/19751>